

かんたん！化学物質のリスクアセスメント ～厚生労働省版コントロール・バンディング～



①「職場のあんぜんサイト」にアクセスします。
「化学物質のリスクアセスメント実施支援」をクリック

リンクする と概要説明 に移動しま す)	対象	特色	マニュアル ・参考	ツールへの リンク
厚生労働省版コントロール・バンディング	有害性	ILO(国際労働機関)が中小企業向けに作成した作業者の安全管理のための簡易リスクアセスメントツールをわが国で簡易的に利用できるように厚生労働省がWebシステムとして改良、開発したものです。液体・粉体作業用と主に粉じん用に定める粉じん作業用の2つのシステムあり。化学物質の有害性情報、取扱い物質の揮発性・飛散性、取扱量から簡易にリスクの見積もりが可能。【初級】	・液体・粉体作業 ・粉じん作業	・液体・粉体作業 ・粉じん作業
爆発・火災等のリスクアセスメントのためのスクリーニング支援ツール	危険性	化学物質や作業に潜む代表的な危険性やリスクを簡便に「知る」ことに基づいた支援ツール。ガイドブックでは、化学物質の危険性に関する基本的な内容に加え、代表的なリスク低減対策についても整理されている。【初級】	・マニュアル ・入門ガイド ・概要版 ・全体版	・爆発・火災等
作業別モデル対策シート	有害性	主に中小規模事業者など、リスクアセスメントを十分に実施することが難しい事業者を対象に、専門性よりも分かりやすい簡潔さを優先させ、チェックリスト、危険やその対策を記載したシート。リスクレベルは考慮せずに作業毎に代表的な対策を記載。【初級】	-	・作業別モデル対策シート(準備中)
CREATE-SIMPLE	有害性	主にサービス業や試験・研究機関など、比較的少量の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件(取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護具の有無等)から推定したばく露濃度とばく露限界値(またはGHS区分情報)を比較する方法。【初級】	・マニュアル ・設計基準	・CREATE-SIMPLE
検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブック	有害性	簡易な化学物質の気中濃度測定法のひとつである検知管を用いたリスクアセスメント手法のガイドブック。SDS交付義務対象物質のうち検知管で検知可能な化学物質の一覧や検知管の原理などについても整理されている。Microsoft Excelを採用した評価ツール	・ガイドブック	・支援シート

②「厚生労働省版コントロール・バンディング」のツールを選択
「液体・粉体作業」OR「粉じん作業」のいずれかを選択
(※以降、「液体・粉体作業」を選択した場合を紹介します。)

リスクアセスメント実施支援システム

Step1 > Step2 > Step3 > Step4

ステップ1: リスクアセスメントを行う作業
まず最初に、リスクアセスメントを行う作業を決めます。
どこで行っている、どのような作業か
・何人で行っているか
・取り扱っている化学物質は何か、またその性状はどのようなものか
有害性情報がわかるもの(登録に表示されたツール、SDSなど)もご用意ください。

※ は必須項目です。

タイトル	○△ライン1
担当者名	○○
作業場所	○×工場
作業内容	塗装
作業者数	10人未満
液体・粉体	<input checked="" type="radio"/> 液体 <input type="radio"/> 粉体
化学物質数	2

※本サイトでは、入力情報の収集・蓄積を行っていません。

③「※」印は必須入力です。

必須入力は、「作業内容」、「作業者数」、「液体・粉体」の別、「化学物質数」です。

「次へ」をクリック

タイトル、担当者名は最後に出力
作業内容 選択後の作業内容
作業者数 選択後の作業人数
液体・粉体 主に取り扱い注意(液体・粉体)を選択して、その作業で取り扱うことになる化学物質の種類の数を入力します。

④「検索」をクリックすると

Step1 > Step2 > Step3 > Step4

ステップ2:作業状況
どのような化学物質を、どのような状況で、どの程度の量、取り扱っているかを、それぞれの化学物質ごとにに入力します。
は必須項目です。

政令番号:

化学物質名称

GHS分類区分 (GHS分類区分を入力するための表が開きます。)

沸点 °C

取扱温度 °C

取扱量単位 kL(取扱量ランク:多量)
L(取扱量ランク:中量)
mL(取扱量ランク:少量)

化学物質名称選択画面

化学物質名称の一部またはCAS番号を入力して検索してください。

No.	政令番号	CAS番号	化学物質名称
1		81-15-2	5-ターシャリ-ブチル-2,4,6-トリニトロ-メタ-キシレン(別名ムスクキシレン)
2	9-136	108-38-3	m-キシレン
3	9-136	95-47-6	o-キシレン
4	9-136	106-42-3	p-キシレン
5	9-136	1330-20-7	キシレン
6	9-593	107-41-5	2-メチル-2,4-ペンタンジオール【ヘキシレングリコール】
7	9-598	5124-30-1	メチレンビス(4,1-シクロヘキシレン) = ジイソシアネート

⑤SDSを参考に「CAS番号」を直接入力するか、化学物質名の一部を入力して検索する。

該当する化学物質をクリック

⑥「反映」をクリックすると、GHS分類区分、沸点が自動的に入力される。

⑦「※」印の「取扱温度」、「取扱量単位」を入力する。「次へ」をクリック

Step1 > Step2 > Step3 > Step4

ステップ3:化学物質のランク及びリスクレベル
化学物質ごとの有害性ランク、揮発性・飛散性ランク、取扱量ランクと、リスクレベルを表示します。


《作業名》	塗装
リスクレベル	4, S
《化学物質名》	9-72-2 エチレン
有害性ランク	D, S
揮発性ランク	中
取扱量ランク	中量
リスクレベル	4, S
《化学物質名》	9-407トルエン
有害性ランク	D, S
揮発性ランク	中
取扱量ランク	中量
リスクレベル	4, S

Step1 > Step2 > Step3 > Step4





ステップ4:作業のリスクレベルと対策シート
その作業のリスクレベルと対策すべき事項を表示します。
また、レポート及び対策シートをPDFで提供します。
リスク低減対策をご確認ください。

リスクレベル	実施すべき事項
4	化学物質の使用の中止、代替化、封じ込めの実施 1)原料の代替化 2)工程の密閉化 など
S	皮膚や眼に対する保護具の使用 など

レポート 及び対策シートをご確認ください。

レポート 

該当するリスクレベルの対策シートは以下の通りです。

作業名	対策シート表題	シートNo	
一般原則	一般原則	400	
一般原則	皮膚や眼に有害な化学物質に対する労働衛生保護具	SK100	
一般原則	呼吸用保護具の選び方と使い方	R100	

(参考)該当リスクレベル未満の対策シートは以下の通りです。

Lv	作業名	対策シート表題	シートNo	
3	一般原則	封じ込めの一般原則	300	
2	一般原則	局所排気装置	200	
2	一般原則	層流ブース	202	
2	一般原則	ブッシュ型型換気装置	202a	
2	塗装	吹き付け塗装	216	
1	一般原則	全体換気	100	

⑧「リスクレベル」を確認し、「対策シート」を衛生対策の参考とします。